

大阪大学大学院薬学研究科 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開

1. 研究課題名	転移性脳腫瘍、悪性髄膜腫の細胞パネル・腫瘍移植マウスモデルの構築と創薬展開
2. 研究責任者 (所属・職位・氏名)	大阪大学大学院薬学研究科・特任教授（常勤）・辻川和丈
3. 倫理審査と承認日	【承認日】2023年3月29日 【審査】大阪大学大学院薬学研究科・薬学部臨床研究倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の承認を得て実施する。
4. 研究実施期間	2023年3月29日～2027年3月31日
5. 共同研究機関および 各施設の研究責任者 (※多機関共同研究の場合記載)	鹿児島大学病院 脳神経外科 教授 花谷亮典
6. 研究の目的・意義	<p>癌の治療薬創製においては培養細胞株ではなく臨床検体を用いた研究が重要な知見を与える。一方、癌により命を落とす最大の理由として転移により転移先の臓器機能に影響を与えることがあげられる。特に脳への転移は生体機能制御や生命維持に多大な影響を与える。よって転移性脳腫瘍に対する治療薬の創製は患者の生命の維持だけではなく生活の質（Quality of life: QOL）の低下を防ぐためにも切望されている。一方、脳の表面を覆う髄膜の一つである「くも膜」から発生する腫瘍である髄膜腫は、そのほとんどは良性腫瘍である。しかし発症頻度は低いものの高い増殖能や転移能を有する悪性の髄膜腫（悪性髄膜腫）もあり、その発症原因は不明であり、治療薬もないのが現状である。</p> <p>そこで本研究では鹿児島大学の脳神経外科学分野、分子腫瘍学分野との共同研究により、転移性脳腫瘍や悪性髄膜腫の臨床検体を用いて初代培養細胞系（Patient-derived cell: PDC）の作製とカタログ化、マウス移植腫瘍（Patient-derived xenograft: PDX）を樹立する。さらにそれらを用いて癌細胞の遺伝子・細胞生物学的解析と癌細胞増殖抑制作用を有する化合物を創製し、創薬・臨床応用のための知見を得ることを目的とする。本研究の意義として、転移性脳腫瘍や悪性髄膜腫に関する研究基盤材料の作製とそれらの性状情報が取得され、治療創薬へと展開できる。</p>
7. 対象となる試料・情報、その取得期間、利用方法	鹿児島大学病院脳・神経センター脳神経外科で転移性脳腫瘍や悪性髄膜腫と診断され、腫瘍の摘出手術を受けた患者。患者の摘出組織ならびに患者背景情報。
8. 利用または提供する試料・情報の項目	転移性脳腫瘍、悪性髄膜腫の術後検体と患者情報（匿名化された番号、性別、年齢、診断名、病期、グレードなど）
9. 研究対象者またはその代理人の求めにより、研究対象者が識別される資料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること及びその方法	ご自身の試料・情報を研究に利用されたくない方は、連絡先までその旨お知らせいただければ研究対象から削除する。また研究対象者は「同意撤回」により、研究協力をいつでも途中で止めることが可能。またそれによって不利益を被ることもない。
10. 研究資金・利益相反	<p>科研費</p> <p>AMED生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS）</p> <p>民間企業共同研究費</p>
11. お問い合わせ先	<p>大阪大学大学院薬学研究科</p> <p>附属化合物ライブラリー・スクリーニングセンター 特任教授 辻川和丈</p> <p>e-mail: tujikawa@phs.osaka-u.ac.jp, 電話番号: 06-6879-8190</p>